

新・生物多様性国家戦略の実施状況の点検結果（第2回）

<目次>

はじめに

「『新・生物多様性国家戦略の実施状況の点検結果（第1回）』を踏まえた施策の方向について（意見）」の対応状況 1

1. 点検の方法について 2

（1）生物多様性上の課題全体の体系的な点検について 2

（2）具体的施策の展開に関する点検結果（個票）について 3

（3）地方公共団体、企業、民間団体の取組について 3

2. 関係省庁が実施している環境調査について 5

3. 新国家戦略の普及啓発について 6

（1）自然への関心があると回答した割合は約3/4 6

（2）「生物多様性」の認識度は3割、「生物多様性国家戦略」の認識度は6.5% 6

（3）自然環境に関する情報の入手経路は テレビ、新聞、雑誌 8

（4）現在進めている取組 8

4. 生物多様性の理念についての議論を深めることについて 9

地方公共団体、企業、民間団体の取組について 11

1. 地方公共団体における生物多様性の確保に向けた取組 11

（1）地方公共団体における自然環境・生物多様性の保全に関する計画の策定状況 11

（2）地方公共団体における自然環境・生物多様性の保全に関する数値目標の設定状況 12

（3）自然環境の保全を図るため横断的な組織を設置している地方公共団体の状況 14

（4）地方公共団体における取組事例～熊本県白川における河畔林保全～ 14

2. 企業における生物多様性の確保に向けた取組 16

（1）企業に対する認識の変化 16

（2）企業（建設会社）における取組事例～十勝多自然ネット～ 17

3. 民間団体における生物多様性の確保に向けた取組 20

（1）活発化する民間団体の取組 20

（2）民間団体による自然再生に向けた取組調査について 21

（3）民間団体の取組事例～東京湾・横浜のアマモ場再生～ 22

（4）住民参加の事例～松浦川アザメの瀬自然再生事業～ 23

生物多様性の危機への対応 25

1. 「第1の危機」への対応 25

2. 「第2の危機」への対応 26

3. 「第3の危機」への対応 26

主要テーマ別取扱方針に関する点検結果 27

1. 重要地域の保全と生態的ネットワーク形成 27

(1) 重要地域の保全	27
(2) 生態的ネットワークの形成	29
2 . 里地里山の保全と持続可能な利用	30
3 . 湿原・干潟等湿地の保全	32
4 . 自然の再生・修復	33
5 . 野生生物の保護	35
(1) 種の絶滅の回避、猛禽類保護への対応、海棲動物の保護と管理	35
(2) 野生鳥獣の科学的・計画的な個体群管理システムの確立	36
(3) 移入種（外来種）問題への対応	37
6 . 自然環境データの整備	39
(1) 生態学、分類学を中心とした基礎的研究や、関連する応用的研究の推進	39
(2) 自然環境保全基礎調査の質的転換	40
(3) 情報の共有と公開	41
7 . 効果的な保全手法等	42
(1) 効果的保全のための様々な手法の活用、環境アセスメントの充実	42
(2) 国際的取組	43
具体的施策の展開に関する点検結果	46
1 . 国土の空間的特性、土地利用等に応じた施策	46
(1) 森林・林業	46
(2) 農地・農業	55
(3) 都市・公園緑地・道路	58
(4) 河川・砂防・海岸	63
(5) 港湾・海洋	70
(6) 漁業	73
(7) 自然環境保全地域・自然公園	77
(8) 名勝・天然記念物	80
2 . 横断的施策	81
(1) 野生生物の保護と管理	81
(2) 生物資源の持続可能な利用	87
(3) 自然とのふれあい	93
(4) 動物愛護・管理	96
3 . 基盤的施策	97
(1) 生物多様性に関する調査研究・情報整備	97
(2) 教育・学習、普及啓発及び人材育成	101
(3) 経済的措置等	105
(4) 国際的取組	107